

側からも同様の意見がなされるべきものと思ふ。人間にとつて必要な區分をなすに當つては、人間の實際的分布が最も重要な要素となると思ふ。(以上)

(1) C. B. Fawcett, Natural divisions of

England, The Geographical Journal, XLIX,

No. 2, 1917, pp. 124—141.

〔附記〕本稿の執筆に當つては京都帝國大學大学院學生文學士近藤忠君の勞を煩はす所が多かつた。銘記して深く感謝の意を表す。(昭和九年八月一日稿)

經濟空間と經濟地域 (クラウス)

安藤 鏗 一

Th. Kraus の經濟空間 (Wirtschaftsraum) に

關する論文⁽¹⁾は、經濟地理學の立地論に對する關係、經濟空間の國民經濟學的並びに經濟地理學的解釋及び經濟空間と經濟地域 (Wirtschaftsgebiete) の概念を論じた四つの章から成つてゐる。此處では最後の經濟空間と經濟地域の概念を記した部分を紹介した⁽²⁾。

註 (1) Th. Kraus, Der Wirtschaftsraum: Gedanken

zu seiner geographischen Erforschung. Köln a. Rh., 1933.

(2) 勿論紹介は順序に従つて行はれるべきものではあるが都合上最後の部分を先きにした。經濟空間の經濟地理的並びに國民經濟學的解釋を論じた部分もいづれ何等かの形式で纏めてみたい。尙最初の經濟地理學と立地論の關係を取扱つた部分は地理教育に發表の豫定の拙稿に於て不充足ではあるが述べたつもりである。

Kraus は經濟景觀 (Wirtschaftslandschaft) なる言葉の代りに經濟空間 (Wirtschaftsraum) なる表現を使用することを提議する。即ち Landschaft と云ふ言葉が各人によつて多少異つた内容を具備する如く解釋されてゐることに對し、最も一般的であり、研究方向の異つたものにも共通な關係を持つことの出来る Raum と云ふ言葉でそれを置き換へんとするのである。而して Geiete なる表はし方はそれに反して固く境界を廻らし、政治的に定まつた空間の場合に使用されねばならないと彼は考へるのである。

經濟空間はその本質から何等確定的な境界を持たない。經濟空間の中心に於てはすべての景觀的な規範と經濟的な規範とが同時に結合して居り、その規範によつて我々は經濟空間を認識し、説明することが出来るのである。併し少しでもそれから離れるに従つて特徴は續々分離し、新しくそこに現れる現象は隣接の經濟空間に屬するものである。そして特に空間並びに經濟空

間が多面的、且非常に高次のものであればある程境界は増々不確實なものとなる。だが人類地理學に於ては鋭い線によつて輪郭を縁取られた地積、即ち國家が同時に扱はれねばならない。國境は屢々自然的・文化的・並びに經濟的な空間統一を破つてゐる。そのために國境は反地理的な分離の原理と見られる。かゝる國境の内部では經濟生活を獨自の意思に従つて構成し、少くとも自由な(自然的な)發展をひどく變化せしめ得る或力が人間の共同社會から働くのである。即ち國家は明確に境界を廻らされた經濟地域(領域)を構成する。併し一方かうした使ひ方には反對がある。何故なら工業地域 (Industriegebiete) 等の如き表現では特定の現象の卓越してゐると云ふ意味で、一般的な空間の特徴を示すものとして用ひられてゐるからである。けれども自由な經濟空間と國家的に結合された地域とはその本質に稍反對のものが存在する。勿論理論的には國家地域は確かに又統一的な經濟空間であ

り、或は他方に於て政治的な操作によつて閉鎖された市場にまでもすることが可能であるかも知れないが、尙本質的には異つたものを持つて居るやうに思はれる。即ち國家と云ふ經濟地域は政治地理學が國家景觀(Staatlandschaft)の研究をなすものと理解する限り、政治地理學の研究領野でもあるからである。

かゝる經濟空間並びに經濟地域の差異は獨和或は獨・白の國境に於て明らかに認識出来る。其處では國境の兩側に同じ石炭地區、同じ鑛業空間が存在する。即ち Alsdorf ー Heerlen は互に異つた國家の屬性とそれの經濟に及ぼした結果によつて區別されるのである。このやうな場所に於ては「地域」の要因が空間のそれよりも遙かに強く働くと云ふことが考へられる。併し農業空間に於ては「地域の境界」は鋭く切れてゐないことが多いし、又例へば東洋の國家の或ものは亞熱帶遊牧草原の經濟空間にとりかく從屬せしめられてゐる。而して地域的に離れてゐて

もかゝる現象はその現象が國境の兩側に存在するときには一緒に空間として解釋され得るし、比較研究も可能なのである。

國家領域を經濟地域と拘束のない經濟空間に區別することは何等本質的な困難を生ぜしめない。そればかりでなく經濟空間の内國的な分割が難しい問題であると云ふ廣い認識にまで導いた。例へば Länder, Regierungsbezirke, Kreise, Aemter, Gemeinden の如きは内國地域であるが、是等は經濟地理學的に如何なる意義を與へるであらうか。經濟空間は行政的な境界に依存して居ない。だが行政的な單元はそれがその内部で經濟に一定の特色を與へる限り、經濟地域を構成する。併し國家と比較すれば行政單元の力はあまりにも小さすぎる。にも拘らず全く經濟地理學的な意義なしには内國的な境界は存在しない。獨逸に於てはかゝる線の多くは嘗て經濟を獨裁した國家の境界であつた。併し純粹な行政區域からも尙活潑な作用が出てゐる場合も

ある。それは無論大した意義はないが注意に値する。地理的、經濟的に一樣な構造の地方では放射狀の交通網を持つた或行政區域の中心首都は或小さな經濟空間の市場並びに中心點であり得る。それで例へば北獨逸の平原に於ては行政區域と經濟空間は一致する。更に大きな行政單元例へば *Regierungsbezirke, Provinzen* に於ても同様な一致が見られる。かゝる一致は近代の經濟的發展の下に於ける状態を考慮すれば全く偶然的なものであらう。併し又行政はそれが自分の地區で經濟部門を自由意思乃至は強制の下に結合し得る限り、經濟構造の中に積極的に喰ひ込むことが出来る。特に農業組合や販賣組合は行政地區に従つてゐるが、經濟空間に従つては居らない。即ち内國的な地區に於ける個々の作用に於ても「地域」は「空間」より遙かに強く自己を現はしてゐる。併し根本的には行政單元は經濟空間の分割のためには不適當なものとして示されてゐる。何故なら行政單元は全く異つ

た範疇に屬する故である。従つて國家的な影響の下にある組織、例へばプロシヤの *Landwirtschaftskammern* が行政境界を採用して經濟空間に對する何等の考慮を拂はぬとしても不思議ではない、併し反對に經濟空間が行政區域に對して自己を完成してゐる所がある。そこでは經濟空間が自らを構成する無數の「地域の部分」を困難を冒して共通なものに完成すると云ふ特別な課題を提出してゐるのである。是は地理學者に關係が特に深い、何故ならそれは經濟的な文化景觀を計畫によつて完全な形態につくり上げることの問題であるからである。そしてそれから拘束のない經濟空間に適應した組織によつて領土的な結合を突破すると云ふことに導くのである。獨逸・和蘭・白耳義・北亞米利加の工業空間に於ける「土地計畫」はその問題を實際に於て解決してゐる。都市や村落の建設計畫も同じ思想を發展せしめた。併し經濟空間が全體として自らを完成してゐると云ふことは極めて稀な

現象である。

經濟的な認識と指導のためには同種の空間を結合することが大切であると云ふ觀念は屢々實行に移された。佛蘭西では經濟地域 (Wirtschaftsregionen) をつくつたが、その境界は行政地區 (Verwaltungsdepartment) を少くとも部分的に切斷してゐる。又獨逸の鐵道の交通地區 (Verkehrsbezirke) にも同じ考が採り入れられてゐる。最後にソヴィエットロシアの經濟地帯 (Wirtschaftsrayon) は計畫的な經濟空間の思想を含み、非常に教へられる點を持つた研究對象である。我々が長期の觀察に基く不變の欲求と確實な生産の基礎に到達せんと志し、外部から土地に働きかける經濟史上の事件の偶然的なものの可能性に従つて取除けば取除く程、地理學的に基礎づけられた計畫に於て經濟空間は單一な環境をつくることが出来るのである。土地地域 (景觀) はそれが如何に人間によつて支配されようとも獨自の生活をその法則に従つて把持

してゐると云ふ體驗を人はそこで得るに違ひないであらう。

地理學に於ては拘束のない土地地域 (景觀) と境界によつて結ばれた領土の矛盾の考が既にずっと以前から地誌に於て存在してゐる。國民經濟學の空間の批判は殘念ながら少ししか發展しなかつた。そして國民經濟學の影響を受けて經濟地理學に於ては「空間」よりも「地域」に上席の地位が與へられてゐるのである。空間的なものの眞の認識を不可能にしてゐる根柢深き弊害は「地域」が土地地域 (景觀) 的な意味で診斷されてゐることにあるのである。その際行政官廳が主體となつてつくる統計は地域を固守する辯明とはならない。同時に他方に於ては非常な進歩を記録することが出来る。即ち Schen, Tiessen, Brüning, Thormann 等の研究がそれであるが、併し是等に於ては經濟空間をその因果關係に於て認識すると云ふ問題の困難が明かにされてゐる。

經濟空間の研究方法としては結局漸進的な方法が正當と言へる。最小單元である Gemeinde が最小の「地域」として統計的に把握され、それが同時に最も狭い經濟景觀である限りに於て、Gemeinde の研究は必要である。こゝに「地域」と「空間」の研究に於ける共通の基礎が存在する。

以上 Kraus の經濟空間と經濟地域の概念に關する見解を簡單ではあるが述べてきた。要するに彼によれば政治的な境界によつて圍まれた經濟地域はそうした拘束から離れた經濟空間に對して本質的な差異を有するのであつて、經濟地理學の研究對象としては少くともそれが地理學的に纏つて居らぬ場合に於ては適當でないとするのである。

併し乍ら B. Dietrich は經濟空間としての國家に經濟地域と云ふ新しい表現を與へることに反對して次の如く述べてゐる。何故ならば國家はその境界によつて一つの空間を抱括してゐる。

それは國家の見地から單一な經濟空間である。經濟地理學者は個々の經濟景觀に於ける各部分を經濟空間としての國家の經濟的な構造として把握することによつて、かゝる事實を始めて正當に扱ひ得るのである。

註 (1) Geographische Zeitschrift 1933 の新刊紹介の項に於て Dietrich は述べてゐる。

もとより政治的な境界によつて圍まれた土地を經濟地域なる名の下に經濟空間から區別することは尙問題である。併し實際研究に於て政治的單元が地理的地域と一致せぬことは屢起ることであり、Kraus の主張もさうした點で意義があると思はれる。(昭和九年七月卅一日)

御多忙な時間を割いて本稿を御校閲下さつた小牧先生に厚く感謝の意を表す。

新著紹介

○大塚地理學會論文集

第三輯 菊版二九六頁

古今書院發行 八月 定價二圓五〇錢

曩に本論文集第二輯下を江湖に送つた大塚地理學會は矢繼